

◇令和４年度 地産地消に関する奥州市民（出荷者）アンケート調査

1 調査目的

「おうしゅう地産地消わくわく条例」の理念実現のため、令和２年度に策定した「おうしゅう地産地消推進計画（以下、「本計画」という。）」の中間見直しを行うにあたり、奥州市内の産直施設等の出荷者の現状や今後の見通しを把握し、本計画に反映するため、アンケート調査を行うもの。

2 調査対象者

市内産直施設 20施設の出荷者

※アンケート配布枚数 1,090枚（回収率想定 約40%-400枚）

3 配付・回収方法

(1)産直施設等を通じて出荷者に対してアンケート用紙を配付。

（出荷時に生産者に配付してもらうこととし、郵送までは求めない。）

(2)回収は返信用封筒による郵送もしくは、産直施設等で預かっていただく。

4 調査期間

令和４年９月１日 ～ ９月３０日

5 回答数

281 件（回答率 25.7%）

6 調査項目

次頁のとおり

問 1 あなたの年齢はおいくつですか。(1つに☑)

1 29 歳以下

2 30 歳 ~ 39 歳

3 40 歳 ~ 49 歳

4 50 歳 ~ 59 歳

5 60 歳 ~ 69 歳

6 70 歳以上

問 2 あなたの性別をお答えください。(1つに☑)

1 男性

2 女性

3 答えたくない

問 3 あなたのお住まいの地域を教えてください。(1つに☑)

1 水沢

2 江刺

3 前沢

4 胆沢

5 衣川

6 市外

問 4 あなたが行っている事業について教えてください。(当てはまるものに☑)

1 水稲

2 大豆・麦等

3 野菜

4 果樹

5 花卉

6 肉用牛

7 酪農

8 養豚

9 採卵

10 プロイラー

11 その他 ()

問 5 あなたの年間の農業販売額についてお答えください。(1つに☑)

1 100万円未満

2 100～300万円未満

3 300～500万円未満

4 500万円以上

問 6 あなたの産直等での年間の販売額についてお答えください。(1つに☑)

1 10万円未満

2 10～30万円未満

3 30～100万円未満

4 100～500万円未満

5 500～1,000万円未満

6 1,000万円以上

問 7 産直施設等への出荷頻度を教えてください。※年間概算 (1つに☑)

1 毎日複数回

2 毎日1回

3 2日に1回

4 週に2回程度

5 週に1回程度

6 月に数回程度

7 年に数回程度

8 その他 ()

問 8 あなたが産直施設等で販売している理由を教えてください。(当てはまるものに☑)

1 高付加価値のものを販売するため

2 規格外のものを販売するため

3 栽培量が少くないものを販売するため

4 加工品を販売するため

5 新しい作物が売れるか試すため

6 経営リスクの分散のため

7 その他 ()

問 9 あなたが主に出荷している産直施設、産直コーナー等を販売額の多い順に教えてください。(3つまで記入)

1

2

3

問 10 あなたが産直施設等で販売している商品について、販売額が多い順に教えてください。(3つまで記入)

1 位

2 位

3 位

問 11 今後、産直施設等での販売はどのように考えられていますか。(1つに☑)

1 拡大していきたい

2 現状維持

3 縮小または止めたい

4 わからない

※問11で「1 拡大していきたい」と回答した人に伺います。

問 12 具体的にどのようにしていきたいか教えてください。(当てはまるものに☑)

1 出荷量を増やしたい

2 出荷頻度を増やしたい

3 出荷品目を増やしたい

4 新たな出荷先を増やしたい

5 学校給食に供給したい

6 その他 ()

※問11で「3 縮小または止めたい」と回答した人に伺います。

問 13 縮小または止めたい理由について教えてください。(当てはまるものに☑)

1 高齢化・後継者がいない

2 出荷・集荷の手間

3 袋詰め作業等の負担

4 産直の当番制の負担

5 機械、設備、施設の老朽化

6 収益性が低い

7 系統・市場出荷に専念したい

8 離農する予定

9 その他 ()

問 14 産直系EC (インターネット上で生産者が直接消費者に農作物を販売するサービス (例：ポケマル、食べチョク等)) について興味がありますか。(当てはまるものに☑)

1 既に取組んでいる

2 実施に向けて検討している

3 興味があるがやり方が分からない

4 産直系ECに興味がない

5 産直系ECを知らなかった

6 その他 ()

問 15 地産地消について、ご意見があればご記入ください。

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

2

7 回答結果

問1 年齢と 問2 性別のクロス集計

性別	30-39歳		40-49歳		50-59歳		60-69歳		70歳以上		未回答		総計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
男性	10	3.6%	10	3.6%	4	1.4%	28	10.0%	60	21.4%	0	0.0%	112	39.9%
女性	2	0.7%	5	1.8%	5	1.8%	52	18.5%	100	35.6%	0	0.0%	164	58.4%
答えたくない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	1	0.4%
未回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.4%	4	1.4%
総計	12	4.3%	15	5.3%	9	3.2%	80	28.5%	161	57.3%	4	1.4%	281	100%

問3 あなたのお住まいの地域を教えてください。

1	水沢	76	27.0%
2	江刺	103	36.7%
3	前沢	35	12.5%
4	胆沢	51	18.1%
5	衣川	4	1.4%
6	市外	6	2.1%
	未回答	6	2.1%
	合計	281	

問4 あなたが行っている事業について教えてください。

1	水稻	120	26.1%
2	大豆・麦等	21	4.6%
3	野菜	192	41.7%
4	果樹	44	9.6%
5	花卉	45	9.8%
6	肉用牛	8	1.7%
7	酪農	1	0.2%
8	養豚	0	0.0%
9	採卵	3	0.7%
10	ブロイラー	0	0.0%
11	その他	26	5.7%
	合計	460	

その他記載内容

・事業としては行っていない・豆腐・菓子製造・菌床椎茸・きくらげ・ひらたけ・加工品・ドライ商品・工芸品・漬物・わらび栽培・山菜・惣菜・自由業・野菜苗・えごま

問5 あなたの年間の農業販売額について教えてください

1	100万円未満	114	40.6%
2	100～300万円未満	67	23.8%
3	300～500万円未満	26	9.3%
4	500万円以上	50	17.8%
	未回答	24	8.5%
	合計	281	

問6 あなたの産直等での年間の販売額についてお答えください

1	10万円未満	64	22.8%
2	10～30万円未満	51	18.1%
3	30～100万円未満	78	27.8%
4	100～500万円未満	65	23.1%
5	500～1,000万円未満	9	3.2%
6	1,000万円以上	8	2.8%
	未回答	6	2.1%
	合計	281	

○年齢別産直売上（クロス）

年齢 産直売上	30-39歳		40-49歳		50-59歳		60-69歳		70歳以上		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
10万円未満		0.0%	4	1.5%	4	1.5%	17	6.2%	39	14.2%	64	23.3%
10-30万円		0.0%		0.0%		0.0%	18	6.5%	33	12.0%	51	18.5%
30-100万円	1	0.4%	1	0.4%	1	0.4%	30	10.9%	44	16.0%	78	28.4%
100-500万円	8	2.9%	5	1.8%	2	0.7%	12	4.4%	38	13.8%	65	23.6%
500-1000万円	2	0.7%	2	0.7%	2	0.7%		0.0%	3	1.1%	9	3.3%
1000万円以上		0.0%	3	1.1%		0.0%	2	0.7%	3	1.1%	8	2.9%
総計	11	4.0%	15	5.5%	9	3.3%	79	28.7%	160	58.2%	275	100%

※未回答は集計していないため、総件数不一致

☆ポイント

- ・出荷者の85.8%が60歳以上となっている。
- ・70歳以上の女性の出荷者が最も多く（100件）、続いて70歳以上の男性（60件）、続いて60歳代の女性（52件）となっている。
- ・49歳以下は男性の出荷者の割合が高くなっている。
- ・産直販売額で最も多い層は、30-100万円(28.4%)、次いで100-500万円(23.6%)、10万円未満(23.3%)となっている。

問7 産直施設等への出荷頻度を教えてください

1	毎日複数回	13	4.6%
2	毎日1回	93	33.1%
3	2日に1回	48	17.1%
4	週に2回程度	49	17.4%
5	週に1回程度	20	7.1%
6	月に数回程度	21	7.5%
7	年に数回程度	19	6.8%
8	その他	9	3.2%
	未回答	9	3.2%
	合計	281	

その他記載内容

- ・その月によってまちまち・農閑期に週2～3回・時期によって毎日の時もある
- ・出荷できない月もある

☆ポイント

- ・出荷頻度は「毎日1回」が33.1%と最も多く、出荷頻度が多いほど販売額が多い傾向にある。
- ・月数回の出荷で500万円以上売り上げている者は、根菜類及び果菜類を複数の産直施設に出荷している。

問8 あなたが産直施設等で販売している理由を教えてください

1	高付加価値のものを販売するため	45	12.8%
2	規格外のものを販売するため	78	22.2%
3	栽培量が少ない物を販売するため	89	25.4%
4	加工品を販売するため	40	11.4%
5	新しい作物が売れるか試すため	13	3.7%
6	経営リスクの分散のため	29	8.3%
7	その他	57	16.2%
	合計	351	

その他記載内容

【70歳以上】JA集荷されない物を販売 【40歳～49歳】共選全量出荷では生活できないため 【70歳以上】海産加工製品の販売 【60歳～69歳】決まってい 【60歳～69歳】客が喜ぶ品を安く販売している 【70歳以上】小遣い稼ぎ 【70歳以上】山菜 【40歳～49歳】自家消費で余るため 【60歳～69歳】自家消費で余るため × 3 件 【70歳以上】自家消費で余るため × 9 件 【30歳～39歳】地場の物を消費者に届けたいため 【40歳～49歳】消費者に新鮮な野菜を食べてもらいたいため 【60歳～69歳】地元で作った農産物を地元で消化してもらうため 【70歳以上】地元の野菜を食べてほしい×2件 【60歳～69歳】収入を得るため× 2 件 【60歳～69歳】収入を得るため、生活を豊かにするため 【70歳以上】少しでも所得を上げるため × 5件 【70歳以上】趣味 【70歳以上】楽しい 【70歳以上】生きがい 【70歳以上】老後の励みのため 【70歳以上】第二の人生を生きるため 【70歳以上】会員との交流が楽しいため 【70歳以上】定年退職後の時間活用 【70歳以上】畑を活かすためと生きがい。家族では食べきれない野菜を販売する 【70歳以上】生産したものを販売するため 【70歳以上】生産者の顔が見れるのが楽しみ 【70歳以上】皆さんに会いに行くため 【70歳以上】地域の人のつながりや、自家栽培の野菜を無駄なく食べてもらうため 【60歳～69歳】せっかくある畑を無駄にしたくない。 購入した方から美味しかったと声をかけて頂く喜びのため。 【70歳以上】土地の有効利用と土地の荒廃防止、生きがい、地域貢献 【70歳以上】中山間地でやむを得ず 【70歳以上】減反のため
--

☆ポイント

- ・49歳以下の出荷者の産直出荷の目的は「規格外の販売(27%)」、「栽培量が少ないものの販売(18%)」が多くなっている。
- ・60歳以上の産直出荷の目的は、「その他(18%)」が増え、主に自家消費の余剰分の販売や交流など、農業経営以外を目的としている。
- ・産直販売額で見ると500万円以上の販売額の者は、「規格外販売(27%)」、「高付加価値(17%)」を目的としている者が多い。
- ・100万以下の販売額の者は「栽培量が少ない(29%)」、「規格外(21%)」、「その他※自家消費余剰、交流目的(20%)」が多い。

問9 出荷している産直施設等（1位）

1	①JA系（江刺ふるさと市場、来夢くん、菜旬館）	75	46.9%
2	②インショップ（イオン、コープアテルイ、ホームック等）	25	15.6%
3	③地域主体（あじさい、みてり産直、米里産直等）	30	18.8%
4	④道・街の駅（観光物産協会・水沢道の駅）	21	13.1%
5	⑤市外（口内産直、イオン金ケ崎、道の駅平泉等）	6	3.8%
6	⑥その他	3	1.9%
	合計	160	

出荷している産直施設等（2位）

1	①JA系（江刺ふるさと市場、来夢くん、菜旬館）	25	35.2%
2	②インショップ（イオン、コープアテルイ、ホームック等）	25	35.2%
3	③地域主体（あじさい、みてり産直、米里産直等）	11	15.5%
4	④道・街の駅（観光物産協会・水沢道の駅）	6	8.5%
5	⑤市外（口内産直、イオン金ケ崎、道の駅平泉等）	4	5.6%
6	⑥その他	0	0.0%
	合計	71	

出荷している産直施設等（3位）

1	①JA系（江刺ふるさと市場、来夢くん、菜旬館）	4	13.3%
2	②インショップ（イオン、コープアテルイ、ホームック等）	11	36.7%
3	③地域主体（あじさい、みてり産直、米里産直等）	4	13.3%
4	④道・街の駅（観光物産協会・水沢道の駅）	3	10.0%
5	⑤市外（口内産直、イオン金ケ崎、道の駅平泉等）	7	23.3%
6	⑥その他	1	3.3%
	合計	30	

出荷している産直施設等（合計）

1	①JA系（江刺ふるさと市場、来夢くん、菜旬館）	104	39.8%
2	②インショップ（イオン、コープアテルイ、ホームック等）	61	23.4%
3	③地域主体（あじさい、みてり産直、米里産直等）	45	17.2%
4	④道・街の駅（観光物産協会・水沢道の駅）	30	11.5%
5	⑤市外（口内産直、イオン金ケ崎、道の駅平泉等）	17	6.5%
6	⑥その他	4	1.5%
	合計	261	

○年齢別出荷している産直施設（クロス）

出荷先	30-39歳		40-49歳		50-59歳		60-59歳		70歳以上		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
①JA系	5	41.7%	12	80.0%	8	88.9%	32	40.0%	47	29.2%	104	39.8%
②インショップ	7	58.3%	14	93.3%	4	44.4%	16	20.0%	20	12.4%	61	23.4%
③地域主体	0	0.0%	1	6.7%	1	11.1%	16	20.0%	27	16.8%	45	17.2%
④道・まちの駅	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	13	16.3%	16	9.9%	30	11.5%
⑤市外の産直等	0	0.0%	3	20.0%	1	11.1%	5	6.3%	8	5.0%	17	6.5%
⑥不明	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.3%	2	1.2%	4	1.5%
総計	12	100.0%	15	100.0%	9	100.0%	80	100.0%	161	100.0%	261	100.0%

☆ポイント

- ・JA系の産直施設に出荷している者が多く、全体で39.8%、次いで、インショップ型が23.4%となっている。
- ・2番目、3番目の出荷先にインショップ型が多いことから、JA系への出荷が中心で、2番目以降の出荷先としてインショップ型が選択されている傾向にある。
- ・地域主体産直及び道の駅・まちの駅に出荷している59歳以下の方がほとんどいない状況にある。

問10 販売している商品（第1位）

1	①果物（りんご、なし、ぶどう、プルーン、ブルーベリー）	26	9.8%
2	②葉茎菜類（玉ねぎ、ねぎ、キャベツ、ほうれん草、白菜等）	37	14.0%
3	③果菜類（きゅうり、トマト、ナス、ピーマン、夕顔等）	74	28.0%
4	④根菜類（じゃがいも、人参、里芋、長芋、菊芋等）	15	5.7%
5	⑤その他野菜（しいたけ、野菜のみ記載）	28	10.6%
6	⑥果実的野菜（スイカ）	1	0.4%
7	⑦米・豆・穀類	10	3.8%
8	⑧山菜・わらび	4	1.5%
9	⑨木の実（栗・青梅・くるみ）	4	1.5%
10	⑩花	26	9.8%
11	⑪野菜苗	5	1.9%
12	⑫漬物・梅干し	10	3.8%
13	⑬菓子・ジュース	5	1.9%
14	⑭惣菜・味噌・もち	6	2.3%
15	⑮その他	13	4.9%
	合計	264	

販売している商品（第2位）

1	①果物（りんご、なし、ぶどう、プルーン、ブルーベリー）	17	7.7%
2	②葉茎菜類（玉ねぎ、ねぎ、キャベツ、ほうれん草、白菜等）	47	21.3%
3	③果菜類（きゅうり、トマト、ナス、ピーマン、夕顔等）	58	26.2%
4	④根菜類（じゃがいも、人参、里芋、長芋、菊芋等）	23	10.4%
5	⑤その他野菜（しいたけ、野菜のみ記載）	20	9.0%
6	⑥果実的野菜（スイカ）	0	0.0%
7	⑦米・豆・穀類	2	0.9%
8	⑧山菜・わらび	3	1.4%
9	⑨木の実（栗・青梅・くるみ）	4	1.8%
10	⑩花	17	7.7%
11	⑪野菜苗	8	3.6%
12	⑫漬物・梅干し	9	4.1%
13	⑬菓子・ジュース	5	2.3%
14	⑭惣菜・味噌・もち	0	0.0%
15	⑮その他	8	3.6%
	合計	221	

販売している商品（第3位）

1	①果物（りんご、なし、ぶどう、プルーン、ブルーベリー）	14	8.4%
2	②葉茎菜類（玉ねぎ、ねぎ、キャベツ、ほうれん草、白菜等）	55	33.1%
3	③果菜類（きゅうり、トマト、ナス、ピーマン、夕顔等）	25	15.1%
4	④根菜類（じゃがいも、人参、里芋、長芋、菊芋等）	21	12.7%
5	⑤その他野菜（しいたけ、野菜のみ記載）	13	7.8%
6	⑥果実的野菜（スイカ）	1	0.6%
7	⑦米・豆・穀類	1	0.6%
8	⑧山菜・わらび	1	0.6%
9	⑨木の実（栗・青梅・くるみ）	2	1.2%
10	⑩花	11	6.6%
11	⑪野菜苗	5	3.0%
12	⑫漬物・梅干し	3	1.8%
13	⑬菓子・ジュース	4	2.4%
14	⑭惣菜・味噌・もち	4	2.4%
15	⑮その他	6	3.6%
	合計	166	

販売している商品（合計）

1	①果物（りんご、なし、ぶどう、プルーン、ブルーベリー）	57	8.8%
2	②葉茎菜類（玉ねぎ、ねぎ、キャベツ、ほうれん草、白菜等）	139	21.4%
3	③果菜類（きゅうり、トマト、ナス、ピーマン、夕顔等）	157	24.1%
4	④根菜類（じゃがいも、人参、里芋、長芋、菊芋等）	59	9.1%
5	⑤その他野菜（しいたけ、野菜のみ記載）	61	9.4%
6	⑥果実的野菜（スイカ）	2	0.3%
7	⑦米・豆・穀類	13	2.0%
8	⑧山菜・わらび	8	1.2%
9	⑨木の実（栗・青梅・くるみ）	10	1.5%
10	⑩花	54	8.3%
11	⑪野菜苗	18	2.8%
12	⑫漬物・梅干し	22	3.4%
13	⑬菓子・ジュース	14	2.2%
14	⑭惣菜・味噌・もち	10	1.5%
15	⑮その他	27	4.1%
	合計	651	

☆ポイント

- ・果菜類（ピーマン、トマト、きゅうり等）を出荷している者が24.1%と最も多く、系統出荷の規格外を販売しているものと考えられる。
- ・葉茎類は、60歳以上の出荷者がほとんどで、栽培量が少ないことから、産直を販路としているものと考えられる。
- ・果物は主にりんごであり、規格外や生産量の少ない品種等の販売が多く、単価も高いことから販売額が大きい。
- ・その他野菜で販売額が多い層は、しいたけを出荷している者である。
- ・野菜・果物に次いで60歳以上を中心に花卉の販売も8.3%と多い。
- ・惣菜等の加工品は、比較的販売額が大きい。

問11 今後、産直施設等での販売はどのように考えられていますか

1	拡大していきたい	37	13.2%
2	現状維持	174	62.1%
3	縮小または止めたい	45	16.1%
4	わからない	21	7.5%
	未回答	3	37.5%
	合計	280	

問12 具体的に、どのように拡大していきたいか

1	出荷量を増やしたい	31	40.8%
2	出荷頻度を増やしたい	15	19.7%
3	出荷品目を増やしたい	18	23.7%
4	新たな出荷先を増やしたい	9	11.8%
5	学校給食に共有したい	2	2.6%
6	その他	1	1.3%
	合計	76	

問13 縮小または止めたい理由について教えてください

1	高齢化・後継者がいない	49	60.5%
2	出荷・集荷の手間	5	6.2%
3	袋詰め作業等の手間	4	4.9%
4	産直の当番制の負担	9	11.1%
5	機械、設備、施設の老朽化	1	1.2%
6	収益性が低い	6	7.4%
7	系統・市場出荷に専念したい	1	1.2%
8	離農する予定	2	2.5%
9	その他	4	4.9%
	合計	81	

その他記載内容

【30～39歳】 来客数の低下。客単価の低さ。
 【30～39歳】 現状の把握がまだできていないため
 【40～49歳】 資材、材料費の高騰
 【70歳以上】 耕作面積が減ったため

☆ポイント

- ・ 拡大意向の者は、出荷量や出荷品目を増やすことで拡大を考えている者が多い。
- ・ 今後の見通しとして現状維持が最も多いが、高齢化・後継者不在を理由に縮小を考えている者が多い。
- ・ 現状維持を選択しているが高齢化・後継者不足を選択している者もあるため、縮小選択者より、高齢化・後継者不在の数が多くなっている。

問14 産直系 E C について興味がありますか

1	既に取り組んでいる	11	3.9%
2	実施に向けて検討している	7	2.5%
3	興味があるかやり方が分からない	42	15.0%
4	産直系 E C に興味がない	86	30.7%
5	産直系 E C を知らなかった	35	12.5%
6	その他	16	5.7%
	未回答	83	29.6%
	合計	280	

その他記載内容

【70歳以上】	産直では個々の販売が禁止されている
【60～69歳】	対応できる自信がない
【70歳以上】	PCを使えるがインターネット販売まで手が回らない
【70歳以上】	インターネットで売れるなら産直は不要
【70歳以上】	現在の販売方法で十分
【70歳以上】	該当しない
【70歳以上】	興味があるが高齢のため取り組みない
【70歳以上】	労働力が足りない

☆ポイント

- ・産直系ECに興味がない者が86件(30.7%)と最も多い。
- ・既に取り組んでいる者は11件で49歳以下の層がほとんどである。
- ・「興味があるがやり方がわからない(15.0%)」、「実施に向けて検討(2.5%)」となっており、説明会等により販路の一つとして取り組む者が増える可能性がある。

問15 自由意見

【30～39歳 男性】農家に求めることが多すぎ。JA,普及センター、市町村を巻き込んだ取り組みが必要

【30～39歳 女性】PR力を高めていきたいので、旬のものを提供できる機会があればうれしいです。その際仲介の他、運んでくれたりしてもらえると助かります。

【30～39歳 男性】良い

【40～49歳 男性】共選に乗らないので地産地消がメインになります。農協の奨励品目以外にも設備投資等への支援があると助かります。

【40～49歳 男性】季節ごとに大規模な品評会の開催で、生産者の意欲向上と消費者への宣伝。

【50～59歳 女性】野菜についての説明や食べ方などもっと掲載したほうが良いと思います。

【60～69歳 女性】地産地消に常に心掛けている。材料はできるだけ地元の物、加工品に米粉を使用。蜂蜜、胡桃、たまごも。

【60～69歳 男性】良いことだと考えている

【60～69歳 女性】後継者がいないのでやりたくてもできない。自給自足でさえ難しくなるのでは

【60～69歳 女性】手数料が高い

【60～69歳 男性】〇〇産直はだめ

【60～69歳 男性】地産地消の概念と狙いは、産地の生産者の顔と地域消費者の顔がであるマーケットコミュニティを作り、消費者ニーズに応えた農産物の生産提供により「産」と「消」の力強い信頼関係、食の安心安全のフードシステムを作ることにあると思います。産直施設での消費者交流会など工夫が必要です。

【60～69歳 女性】地元産野菜のPRや規格外の野菜くだもの等でジャムや加工品を作ってくれる施設がほしい。委託して作ってもらえば保健所の手間がなく商品として売ることができるのではないかなと思う。

【60～69歳 男性】消費者の理解を深めてもらえるようさらなるPR活動を願いたい。

【60～69歳 男性】地産地消に取り組んでいる施設の認知度が低い。

【60～69歳 女性】年齢的なこともあり量は増やせませんがいいものを作っていきたいと思います。

【60～69歳 男性】盗難対策をしてほしい。去年はナスの塩漬けを19個盗難あり。

【60～69歳 女性】地産地消をこれまで以上に推進し、食料自給率向上を市、県、国全体で取り組んでいただきたい。日本の安定と平和は食料の自給にかかっているのです、経営が成り立つ農業立国をお願いします。

【60～69歳 男性】もっと幅広く集客できる体制や工夫があればよいと思う。

【60～69歳 女性】品質も安全で新鮮で安いことを、より多くの方に知っていただきたいです。

【60～69歳 女性】家族が少なくなり農地を荒らすわけにもいかず、女手で草刈りトラクターでの耕起を覚えて何とか維持していますが、上手にできたものを安くてもいいので喜んで購入していただくことに張り合いができました。今年デビューなので来年はもっとたくさん植えようかとおもっています。

【60～69歳 男性】幅広く県南の産品のようにしてほしい。

【60～69歳 男性】水沢は米産地なので、おいしい米を消費者に直接販売を希望する。

【60～69歳 女性】人手が少ない

【60～69歳 女性】安心して食べれる食品

【60～69歳 男性】良い品を安く

【70歳以上 女性】一生懸命出荷してもお客さんが来ず、持ち帰る品が多くやる気を無くしてしまう。お客様が来る産直にするには？

【70歳以上 女性】これからの若者がどのような方法でやったら収益が上がるかわからないまいると思う。会計報告の無い産直ってあるんでしょうか。

【70歳以上 女性】地産地消とは名ばかりで、各地から野菜他集めて加工して販売している方が多い。それが地産地消と言えるのか。

【70歳以上 男性】あまり活用されていない

【70歳以上 男性】販売目標額の達成にのみ視点をおかずに、仮に規格外商品の商品であっても、それなりの値の設定であれば販売コーナーを設けて然るべき。

【70歳以上 女性】地産地消は食の基本であるし、食料生産ほど大切な産業はないと考えています。それなのに世の中一般の見方は一次産業を軽んじていて大いに危うい。農家であるわが家では、可能な限り耕地を活用して自分で収穫した物を食したい。また、購入するものはできるだけ県産品や国産のものを選びたいと思い実践している。

【70歳以上 女性】食育の点からも旬の野菜を食べる事が良いと思うので、少ない農薬で育てた野菜は体にも良い。体が動く限りは続けたい。

【70歳以上 男性】出荷される野菜の種類が減ってきている。年々売れなくなっている

【70歳以上 女性】地元の物を近くの産直施設で販売すれば、新鮮なものを消費者に届けることができるし、送料や運搬費用も安く済むため、生産者消費者両者にとって良いと思います。ガソリンなどの節約になりSDG'Sの観点からも良い。

【70歳以上 女性】若い人が入ってくればと思いますが、無くならないことを願っています。

【70歳以上 男性】地産地消は単にその地域だけで消費する物ではないと考えると産直系ECも良いけれど、奥州市出身者、関係者に消費して貰う方が長く続くと思う。産直を前面に出して販売はもちろん新規就農や他地区からの転入等可能性が大きい。新幹線の一両貨物列車化に向けて今のうちから東京等での諸々の準備をしていく必要があると思う。プロジェクトの新設を提案します。

【70歳以上 男性】できるだけ地域で消費するよう協力していければ良い。

【70歳以上 男性】地域で生産された農産物を購入した時のサービス（シールやポイント等）を考えるべき。

【70歳以上 女性】基本的に地産地消醸成。学校給食などどうなっているんだろう。地元の美味しく新鮮な食材で子供たちを守ろう。

【70歳以上 男性】良いことだと思っています。

【70歳以上 男性】施設向けなど、業務用を増やして地産地消を増やしてください

【70歳以上 女性】メールが1時間ごとに来なくても良い。最後の1回だけでも。

【70歳以上 女性】販売残り商品を**漬物加工して出してましたが、保健所の許可が必要**になるため間もなくできなくなります。それが残念です。

【70歳以上 男性】産直出荷者の高齢化対策。食品衛生法改正で漬物の設備が無いと作れないので対策と助成をしてもらいたい。

【70歳以上 男性】旬の野菜を多く出荷

【70歳以上 女性】産直開設当初は公的機関や組織の後押しで各地にどんどん産直が増え、相互研修等が活発で生産者も地域活性化に貢献していることに誇りを持ち働いていました。大震災が発生したところに自給率の向上が叫ばれていたのにどうでしょう。徐々にその声も薄れているように感じます。奥州市の基幹産業の農業振興にもっと力強いバックアップを願いたい。

【70歳以上 女性】ぜひ学校給食で100%の努力をしてほしい。幼児期から地元の味で成長してもらいたいです。

【70歳以上 男性】大変良いことだと思っています。

【70歳以上 女性】地域農業発展のために必要だとも思います。

【70歳以上 女性】品質の良いものを出したいと思います。

【70歳以上 男性】加工品の定義が不明。以前は里芋の皮をむいた物、カットした一口サイズのかぼちゃ、漬物用の星大根、は加工品と指導を受けた。今は加工品、野菜名と生産者がバラバラのラベルを貼っている。

ラベルに内容量の表示が無いと、価格や現物を見ても購入しづらい。このことから、**最低限の事項は全産直統一すべき**。本協議会が主導して関係機関と良く連携して前向きに付加価値を高めた取り組みを望む。

【70歳以上 男性】退職後産直出荷を始めた者です。

【70歳以上 女性】**働く人が少なく、当番制を無くしてほしい**。野菜を作る時間が無い。

【70歳以上 女性】無農薬品等に気を付けていきたい。

【70歳以上 女性】サラリーマン退職後に本来なら米作りするところ、農機具投資するほどの規模でなく委託し、小規模な果樹園（ぶどう、ブルーベリー）を始め、産直や地区の方に販売している。子どもは都会でサラリーマンをし、夫婦ともに70代であり現状維持の体制です。

【70歳以上 女性】**小麦や雑穀など手軽に製粉できる施設**があるとよい。

【70歳以上 女性】新鮮な野菜で安いです。ぜひいらしてください。

【70歳以上 男性】地元八百屋がないので少しでも

【70歳以上 男性】「地産地消＝産直」は地域の活力となっている。全国では「地域おこし」になっているところもある。

多様な作物は、多くの小規模農家の前向きな意欲により生産され品質も向上している。また、「地産地消＝産直」が拡大すれば所謂地物が主流となり、他からの移入が減少し脱炭素社会にも貢献することとなるが、課題もありその一つは生産規模が小さいことに加え、従事者が高齢化し女性が多くを占めている。

高齢でも女性でも意欲的に働けるのであれば、健康にも繋がり生きがいの創出にもなるのでそれはそれで良いのだが、リタイアした時ほぼ確実に生産者が減少してしまうことになる。

大規模農業者や他業種のような「後継」ということも考えにくいので、ここをどうにかしないと「地産地消＝産直」は先細りになってしまう。

行政、農業団体、地域造詣のある関係者などでしっかり議論して方向性を出さなければならぬ。

国や地方自治体、農業団体などは米に関わる基盤整備事業や生産物の補償などはこまめに支援するが、規模の小さな「地産地消＝産直」に対する支援は聞いたことがない。

これだけ生産物の循環性があり生産者と消費者が直結している仕組みと行動を大きく奨励してもよいのではないか。

【不明】店の販売に関わるものです。産直では梅干し漬物らっきょ等を求めるお客様が多数います。現在漬物を出荷している人たちは工房が無い方が多く、工房が無いと加工品が出荷できなくなります。誰でも使用できる加工場を市で作っていただければと思います。

【不明】出荷者に種子、苗類などの補助制度などを設けてほしい。

☆ポイント

・食品衛生法の改正によって、令和6年6月以降漬物等の販売に許可が必要なため、加工施設整備の支援の要望がある。